

様式第7号（第21条関係）

番 号
令和 7年 6月 30日

佐賀県県民協働課長 様

住 所 鳥栖市河内町字谷口2212-2
団 体 名 特定非営利活動法人 市村自然塾 九州
代表者職・氏名 代表理事 柴田 暢雄
電 話 番 号 0942-82-5211

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による
寄附金活用実績報告書

令和6年度において、当団体に交付された佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して別紙のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱第21条第1項の規定により提出します。

-

令和6年度 佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による寄附金活用実績報告書

- 1 団 体 名 : 特定非営利活動法人 市村自然塾 九州
- 2 事業実施期間 : 令和 6年 4月 1日 から 令和 7年 3月 31日
- 3 事業の背景 (※事業計画書から転記)

■事業の実施により実現したい佐賀県の地域像

基本理念「生きる力を大地から学ぶ」を柱とし、自ら考え、知恵を働かせ、仲間と協力しながら、以下の活動を中心に子どもたちの成長支援に資する。
①農業体験：食べ物の大切さと食育、勤労の大切さ、努力して得られた達成感と喜びの会得。
②自然体験：自然への畏敬の念や安全危険を察知する感性の育成。
③共同生活：自ら進んで取り組み、相手や全体に貢献する喜びを得る。
互いの意思を伝え合うことでコミュニケーション能力を高め、相互理解を深めながら一人ひとりの考え方の多様性を認め合うことができる。

4 事業の成果

①県民の便益にどのようにつながったのか

農作業や自然体験、共同生活の3つをメインに活動を行った。特に農作業では、野菜の収穫のみを体験するのではなく、種まきから除草作業・害虫対策など様々な苦勞があつて収穫に至るといふ食べ物の大切さや勤勞・努力して得られた達成感を体験した。また、異学年で構成したチーム単位で行動し子ども同士で触れ合うことにより、コミュニケーション能力の向上を図り、自ら考え行動し課題を達成していく力をもつた人間力を育むことにつながつた。

②佐賀から広がつた社会像（該当する活動のみ）

- 5 寄附金活用事業実績 : (別記1)
- 6 次年度繰越額活用見込み : (別記2)
- 7 寄附金活用額 : (別記3)

(別記3) 寄附金活用額

【収入】佐賀県ふるさと寄附金収入額 … ① (=A+B)		2,017,641
(内訳)	本年度の佐賀県ふるさと寄附金収入額 … A	2,017,641
	本年度交付を受けた佐賀県ふるさと寄附金分	1,981,350
	前年度控除額(県事務経費)還付分	36,291
	前年度収入済の佐賀県ふるさと寄附金繰越額 … B	0

【支出】佐賀県ふるさと寄附金活用額… ② (=a+b)		2,017,641
(内訳)	事業に活用した寄附金額 … a	1,975,421
	ふるさと納税の募集に要した費用の額 … b	42,220
	返礼品等の調達に係る費用	0
	返礼品等の送付に係る費用	0
	広報に係る費用	42,220
	事務に係る費用	0

佐賀県ふるさと寄附金の次年度繰越額 … ③ (=①-②)	0
-------------------------------------	----------

■直近の収支報告書掲載箇所(ホームページURL等)

<https://www.szi-k.com/>